

演題番号：C8

アグレプリストンで治療した乳腺線維腺腫様過形成 (fibroadenomatous hyperplasia: FAH)の猫の1例

○今西貴久, 今西奈穂子

菜の花動物病院

1. はじめに：猫の乳腺腫瘍の8割以上は悪性だが、一方良性病変の主なものとしては乳腺線維腺腫様過形成 (以下FAH)が挙げられる。乳腺の急速増大と硬結を特徴とし、放置すると感染および壊死を起こす事がある。発症にはプロジェステロンが関与しており、プロジェステロン受容体拮抗薬であるアグレプリストンが有効な治療薬とされている。今回、FAHと診断した猫をアグレプリストンで治療する機会を得たためその治療経過を検討した。

2. 材料および方法：症例は繁殖用個体のメインクーン、未避妊雌、9か月齢、体重4kg。腹部に腫瘤があることに気付き来院した。左右第4乳腺にそれぞれ4~6cmの硬結感のある大型腫瘍と、左右第1, 2乳腺に1cmの腫瘤を確認した。触診では疼痛を認めず底部固着もなかった。腫瘍が大型のため歩行時に引きずってしまい一部紅斑を認めた。悪性腫瘍を疑い二次病院を紹介した。そこでFNA所見と発症年齢からFAHと診断され、アグレプリストンによる治療を提案された。そこで第12病日よりアグレプリストンによる治療を開始した。まず2日連続で投与し、その後約1週間に1回反応を見ながら腫瘍が消失するまで投与を続けていくよう計画し

た。

3. 結果：2日連続投与した1週間後の第19病日、第4乳腺の腫瘍は最大6cmあったのが4.5cmに縮小していた。第30病日、大型腫瘍はさらに小さく柔軟になり、第1, 2乳腺の腫瘍は消失した。その後来院が無く、第50病日来院した時には大型腫瘍はさらに柔軟な状態となり、皮下脂肪様の感触となっていた。アグレプリストン投与をこの日で終了とした。その後腫瘍は消失し第214および451病日に出産したが、乳汁分泌もあり仔猫も問題無く育っている。

4. 考察および結語：FAHは猫特有の疾患とされ主に若い雌猫で発症するが、妊娠中や不妊手術後、稀に雄猫での報告もある。猫の乳腺に腫瘤があるとまず悪性腫瘍を疑ってしまうが、発症年齢と特徴的な肉眼所見から本疾患を鑑別疾患に入れることが重要である。アグレプリストンは本疾患の有効な治療薬で、本症例においても投与後乳腺は速やかに縮小し柔軟になっていった。投与中の副作用も全く無く治癒し、その後通常に繁殖できるようにもなった。アグレプリストンによるFAHの治療は、猫にとって安全で有効と思われた。